

現場 代理人 レポート

最上川下流左岸農業水利事業 生田排水機場建設工事

山形県北西部に位置する庄内地区は、最上川が育んだ庄内平野を中心に平坦で肥沃な土地が広がる米どころです。夏は晴天に恵まれる一方、冬は日本海からの強風や降雪により地吹雪が発生するなど、厳しい自然条件にさらされます。

工事場所は、最上川下流左岸の平地に位置し、豪雨等により最上川支川である京田川の水位が上昇し自然排水が困難となった場合には、湛水被害の生じるおそれのある地域です。本工事は、農地および農業用施設の湛水被害の軽減と地域の防災・減災を図るため、京田川へ機械排水する生田排水機場（排水量6.4 m³/s）を新設するものです。



工事内容は、樋門・樋管工、機場本体工（吸込水槽・吐出水槽）、遊水池工および建築工事などで、工期は4年です。初年度に施工した樋門・樋管工事は、冬季の非出水期に施工しました。非出水期であるにもかかわらず大雨により河川が増水する時があり、仮締切や作業場所への影響が懸念されたため、気象情報や水位把握、監視カメラによる現場確認を併用した管理を徹底し工事を進めました。また、地域特有の厳しい気象条件により工程の遅れが懸念されましたが、樋門へのプレキャストコンクリートの採用や仮設計画の見直しについて事業所の協力を得たことで、悪天候だった今年1月も順調に施工することができました。今年度は機場本体のコンクリート構造物を施工します。引き続き、安全管理を最優先に、良質な構造物の築造に努めてまいります。

監督職員からのエール

本工事は、地域の湛水被害軽減を目的として、一級水系最上川下流域の一次支川である京田川に機械排水を行う排水機場を新設するものです。樋門および樋管の新設にあたっては、河川内工事が非出水期に限定される条件に加え、降雨による河川水位の変動や、冬期における庄内地域特有の厳しい気象条件への対応が求められるなど、高度な工程管理が必要な工事でした。

施工にあたっては、河川の流水を確実に遮断し、安定した施工空間を確保するため、仮設計画や施工手順について十分な検討がなされるとともに、工期短縮を目的とした樋門のプレキャスト化を提案するなど、現場条件を踏まえた創意工夫が随所に見られました。関係者間の円滑な連携と適切な判断により、安全管理、品質管理、工程管理の各面において高い水準を維持した施工が行われたものと評価しております。今後も引き続き、安全第一で工事を進められ、円滑な完成を迎えられることを期待しています。

現場代理人

（写真右） 鉄建建設株式会社

生田作業所長 日下部 亮

監督職員

（写真左） 最上川下流左岸農業水利事業所

工事第一課 設計係 小松 葵

